

KAGUコンペ初の表彰式〜審査員から未来へのコメント

9月20日、せんとびゅあーにて「隈研吾 & 東川町」KAGUデザインコンペの表彰式とパネルディスカッションが開催されました。「主催・同実行委」

授賞式には、国内の受賞者6名が出席。審査員が木製のトロフィー（デザイン：パウ工房）を手渡しました。



▶隈研吾氏（左）と優勝トロフィーを持つ杉原有香さん（右）

最優秀賞となる隈研吾賞を受賞した杉原有香さん（東京芸術大学2年）は、「建築家を目指した高校時代に初めて知った憧れの建築家、隈研吾氏の名前の付いた賞を受賞できて涙が出るほどうれしい」とコメント。隈審査委員長をはじめ審査員からは、受賞者をはじめ

未来を担う若者たちを応援するメッセージが送られました。ディスカッションでは隈氏をモデレーターに、コンペ審査員6名がパネラーとして登壇。「KAGU

が創る未来」をテーマに、今回のコンペの受賞作品を中心に家具が持つ可能性や新しい考え方について多様な視点からの意見交換を行いました。未来へのヒントが多く含まれているこのディスカッションは、同コンペ公式YouTubeで公開予定です。

第2回コンペのテーマは「自由なテーマ」。来年2月末まで、全世界の30歳以下の学生から事前登録受付中です。

「本物は四生モノ」〜ものの価値は長い目で

10月14日、せんとびゅあーにてデザインスクール特別編⑦を開催しました。今回はマルセル・ブロイヤー作、誰もが一度は見たことのある有名なパイプ椅子「チェスカ」について、椅子研究家・織田憲嗣氏が解説。ブロイヤーは、アドラー自転車（ドイツ）の材料として使われ

ていたスチールパイプを家具に応用。スチールパイプを使った最初の椅子と言われる「ワシリーチェア」をデザインしました。その後、カンチレバー（片持ち構造）の「チェスカチェア」を発表し大ヒット（娘・フランチェスカからと



▲横から見るとコの字のカンチレヴァー（片持ち）構造がよくわかります。

った名称だそうです。有名になると背中合わせなのがコピー商品の問題です。オリジナルよりはるかに安いコピーは、その価格に抑えるためにどこか手を抜いて作られ、寿命が短いもの。本物の名作は修理などのアフタ

ーケアもしっかりしており、「一生モノではなく、四世代使える四生モノ。ロングスパンで考えれば、その値段は決して高いものではない」と織田氏。自分の使っている家具が受け継がれていくというのは、とても素敵ですね。11月は14日(日)にフィンランドの巨匠、アルヴァ・アアルトについてお話しします。

大雪山マナー守って楽しもう

10月2日・3日、旭岳ビジターセンターにて「大雪山を快適に楽しく利用するためのフォーラム」を開催しました。1日目は仲



▶トイレブース内にある座面に携帯トイレをかぶせ、水500mlが吸水されることを実験(中俣氏)

侯善雄氏（山のトイレを考える会）に、北海道の山のトイレ事情やその変遷をお聞きしました。山にはトイレの無い場所が多く、かつては排せつ物や紙が放置されて環境を悪化させていました。同会は「山のトイレマナー5箇条」を設定し、マナーガイド&マップを作成・配布。近年は携帯トイレの普及啓発にも努めています。携帯



▶鹿は生息地にある食べ物によって角の形状が変化。栄養が少なくと薄く短くなります(鳥羽氏)

けることが大切です。一ケアもしっかりしており、「一生モノではなく、四世代使える四生モノ。ロングスパンで考えれば、その値段は決して高いものではない」と織田氏。自分の使っている家具が受け継がれていくというのは、とても素敵ですね。11月は14日(日)にフィンランドの巨匠、アルヴァ・アアルトについてお話しします。